

福島県 “原発事故” 被災の現状

現地調査報告 2015・5・31

2011年3・11の福島原発事故により私たちはあらゆる領域で“社会のあり様”が問われました。自治体議員関係者で構成される「福島原発震災情報連絡センター」主催で“いわき市～楡葉町～富岡町”の現状視察・調査が催されました。

今、福島県では避難区域が、帰還困難区域（年間被ばく線量 50 ミリシーベルト超）、居住制限区域（20 ミリシーベルト超～50 ミリシーベルト）、避難指示解除準備区域（20 ミリシーベルト以下）の3つに分かれています。

国は帰還にむけて避難指示を解除しようとしています。除染作業は終了したとはいえ高い線量を示しているのが現状です。いわき市の宿泊施設「ゆったり館」の前では $0.17 \mu\text{s v/h}$ （地上 5cm）でしたが、楡葉町の避難指示解除準備区域の天神岬公園では $0.89 \mu\text{s v/h}$ 、更に富岡町の準備区域と居住制限区域との境あたり桜並木の周辺は $1.1 \mu\text{s v/h}$ （バスの中で）、立ち入り禁止の周辺は $3.12 \mu\text{s v/h}$ の表示がされていました。

元楡葉町議会議員の安島さんからは「放射線管理区域（年間 5.2 ミリシーベルト = $0.728 \mu\text{s v/h}$ ）よりも高い線量の避難指示解除準備区域が楡葉町では今年の7月に、富岡町では来年度に解除されようとしている。森の中は平均 $3 \mu\text{s v/h}$ なのに」との指摘。「管理区域では労働者は10時間以上いてはいけないとされているのに、それより高い地区で24時間生活するなんて」と不安と問題点を提起しました。

人の健康を抜きにした避難指示解除で本当に街づくりが出来るのだろうか？ 楡葉町の人口 7000 人のうち帰還申請は 600 人くらい、その中の 100 人位が帰還してきているとのことです。



「避難者への住宅支援の打ち切り」「避難区域の解除」「賠償金の打ち切り」「健康被害はなし」と国は3・11がなかったかのように風化させようとしています。だれ一人責任を取らずに・・・富岡町の街並みは3・11の津波を受けた状態のまま老朽化・風化していました。やけに復旧された交通信号の青だけがまぶしかったです。

アベノミクスの巨大資本が活動しやすい社会＝原発再稼働では、原発震災の福島の未来はありません。日本の未来にも希望がありません。今一度これからの社会のありようを問い直す作業から、根源的に問題解決の方向性を探っていかなければと思われました。